

タイインターン報告

学部学科：工学部機械科4年

氏名：三宅諄

僕がこの企画と出会ったきっかけは3年生の夏休みから始めた就職活動がきっかけでした。今までやりたいことなど特になくそれまでの大学生活も、課題が忙しくがんばったと言えることがひとつもありませんでした。このまま何となく日々が過ぎていく未来を考えてしまい、そんな状況をかえたいと思っていて、とにかく学校で開催される説明会に出席し、そこでこのインターンシップに出会いました。

僕にとっては初めての海外でした。しかも、英語は中学レベルでタイ語も「おいしい」「ありがとう」「こんにちは」「いくらですか」の四つしか知らず、さらに人見知りということもあり不安をあげたらつきない状態でした。それでも僕をつき動かしたのは、今しかできないということとその状態で一ヶ月過ごす自分がどうなるのかへの好奇心でした。



タイでは現地の人と関わりたいと思いましたが行き先など決まっていなく地図でダーツの落ちたところに行くことに決めました。落ちたところはバンコクの人に聞いても観光雑誌にも載っていない東北地方のバンパーイという田舎。泊まる宿は決めていなく翻訳アプリで現地の人と交渉しました。全く通じませんでした。野宿覚悟で交渉し続けました。久しぶりにお店に出会い、そこで水を買おうと

英語で話しかけると興味を持ってもらい少し話すことに。その子どもたちと折り紙などをして遊んでいると日も暮れてきたので泊めてもらうことになりました。次の日にはお客さんとしてきていた小学校の校長先生のつながりで学校にお邪魔したり、トラックの荷台にのせてもらってプチ旅行に連れて行ってもらったりと様々な体験をさせていただきました。簡単な言葉でしか会話できませんでしたが言語を超えたつながりができたと思います。挑戦することで生まれたこの出会いだと思います。この他にも書ききれないくらいの体験をしました。自分自身の価値観も確実に変わりました。たし、かえってきた時に自分の顔色が変わったと言われたのも嬉しかったです。この一ヶ月は生きている実感があった一ヶ月でした。本当に行ってよかったです。